

山寺ふるさと便り

=第28号=

宝珠のしずく

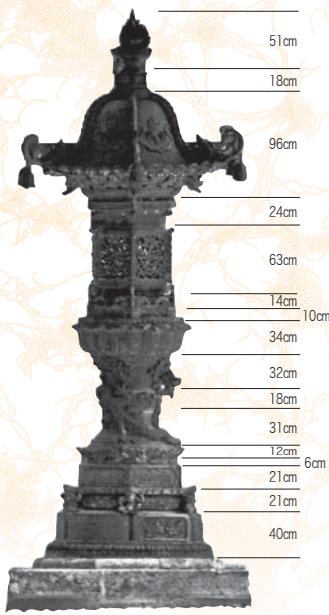
題字 後藤仁田(性相院)

発行所 やまでら館

〒999-3301 山形市山寺517-1
TEL 023-695-2001 FAX 023-695-2164

発行者 山寺地区振興会
編集 宝珠のしずく編集委員会

<高さ 4.9 m>

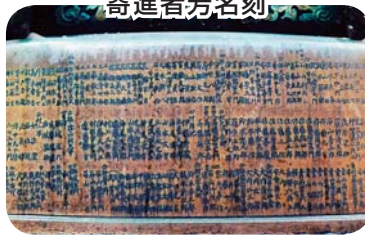


大灯籠各部寸法



令和5年7月14日
奥の院の大灯籠
山形市民俗有形文化財に指定

寄進者芳名刻



★山寺立石寺奥之院広場に造立の大灯籠は、明治28(1895)年、現在の山形市銅町マルイ铸造所縁の铸物師小野田才助の作である。★令和5年7月14日、山形市有形民俗文化財に指定された★小野田铸物師は同意匠の大灯籠を全国3ヶ所、金華山黄金山神社に明治25年(1892)と27年、明治28年(1895)3月金刀比羅宮に、同年8月当立石寺奥の院に奉納★何れの大灯籠も、明治初期の溶接技術のなかった中で、薄手の七層構造に精巧な組み合わせの細工を施す見事な铸造になっている★この大灯籠の発願主は、当時の立石寺住職壬生優田。中性院、華蔵院、性相院、金乗院が事務総代を務め寄進者を募った。確かめることのできる寄進者数は694人。しかも、その範囲は北は最上郡豊里村、南は置賜郡赤湯村、十王村の広範囲に及ぶ★山寺村140人、旧山形市・高瀬村210人の3地で半数を占め、干布村と高楯村100人が加わり、この外の不分明数を加えると、寄進者総数は更に多くなる

★大灯籠の造立時の山寺地区は未曾有の経済危機に陥っていた★優田住職は、庶民信仰の地山寺に死者の霊の集まる目印の大灯籠を建立し、山寺地区の再興のシンボルにと考えたのではないかと、明治35年頃に明治天皇皇太子の山寺行啓が実施されるという情報が届いていたのではないかと。その準備の一つが大灯籠だったのではないかと★しかし、麻疹の流行で、山寺行啓は明治41年9月18日に延期になってしまった★小野田铸物師の作品は県外に多く見られたが、50余点以上の梵鐘の多くが戦時供出で失われたと言われている。大灯籠は、信仰上の重要さと製作技術の高さから戦時供出を免れたという。



裁判所書記官
正装写真

☆立石寺境内の住人(僧侶他)

山寺村は、昔から立石寺の領地である。寺の主僧が治めている。その配下に代官・大庄屋などがいる。又その下に百姓代がいる。皆主僧を尊敬して「上」と呼んでいる。寺領の石高は千四百二十石。はじめは天皇からの拝領(勅印)だったが、後の徳川氏三代の時、右の石高が徳川幕府の御朱印に改められた。寺に仕える者は、皆その御朱印石高より配当を受けた。立石寺衆徒、すなわち妻帯六ヶ坊、承仕四ヶ坊、十二ヶ坊、これ等は山寺山の内に住んでいた。今は妻帯坊・承仕坊、皆僧侶をやめ、一般人になり(還俗)名を改めている。他村の人であっても祭礼の衆人等は、勿論、別に小役を担っていた。寺領よりの配当を受けていた。

☆山寺の住民の人柄

山寺村の人は山里ということから考えると、人と交わり方は心得た者が多い。これは、もともと、仙台街道に関係したからであろう。しかし、中には悪賢い(狡猾)なる者も少な

くなく、いやらしい(卑陋・ヒロウ)者もいる。これ等の人はただ飲食に日を潰し、云うに云われないことをやり、人から嫌われていた。少し道理の分かる者は、面では親しそうに、陰では非難し合い、悪口を云う者もいる。又、自

分自身を高めようとする素振りも見受けられるが、興味ある男立ての一つである。これとて、唯外面の名譽を得ようとするためのものである。ただ芦澤の人は、実直を旨とする人が沢山おられる。又千手院は最も山深く入ったところなので、人柄も質素なりといふが、さてどうだろうか。人心は、おおむね善いと云つていものかどうかな。私が徳育を施すに容易ではなさそう。

風俗も一般に、男

女ともあまり上品ではない。馬牽く男などは長衣を着、女は皆モンペという見かけのよくないものを身に着け、田畑で働いている。又髪などは束ねて結うのは少なく、ただ束ねて櫛で止めておくだけである。男女の

伊藤友信先生を偲ぶ <Ver3>

『山寺村風土略記』

間柄は余り正しくはない。

☆山寺の方言

又、言葉の訛りが多く、仮名違などは特に聞き難い。例えば、五十音のヤ行を発音するに、シをつける。山をシヤマと言ひ、夜をシヨルと言

う。指をシユビと言う。また、鼻音に訛つたりするのが多い。行くをエグ、行かねをエガネと言う。ペやシは、中でも甚だ多い。ソウダベ、エグベーの如し。

☆山寺の生業と生産物

山寺村の最も賑やかな処の川原町衆は主に旅籠屋、菓子屋、其他の店を営んでいるからだろう、田舎びたところが少ない。

人々の生業(すざわい、職業)は、山寺村は山里なので田畑も少なく、多くの村民は山に入り、薪を取り、或は炭を焼き、あるいは石工・木挽・石材運搬、荷車牽き等、種々の仕事をしている。養蚕業は大変盛んである。

時の移り変わり従ひ、生計を支える生業(職業)もさまざまである。食物は、米も余り多く収穫できないので、かて飯を食べる。魚類を食べることは極めて少く、生魚を食べる人はことのほか少ない。また、川魚を捕つて食べる習慣は昔から少ない。仏の教え(天台宗)のせいだろう。

住居は素晴らしいのは少ない。家の建て方、中には良い葺き方の屋根もあるが、大麥粗末なものが多い。

この村の産物は先ず第一が石材で、山寺石と名付け、方々に売り出されている。一年の売上高は、おおよそ三万才(二尺立法を一才という)で、二千四百円ほどである。とりわけ竿石と呼ぶ石材は誠に珍しく、六角なもの、八角なもの、多角形なものと同様々である。太さは二寸角、六寸角と種々。長さは稀に三間に至るものもある。土を掘って剥ぎ取つて

いる。他村の人は、その自然な形に興味を持ち、購入する人が多く、東京の博覧会にも出品したと云われている。石の質は、いたつてもろい。自分の故郷の朝陽学校の石碑の柵に使われている石材もこの竿石である。又、竿石でない石材はそここの大岩をハツパという爆破で砕き、角材にして売り出している。この仕事に従事している人は、極めて多い。山からは薪炭を生産し、山寺炭と呼ばれ有名でよく売れている。松茸は松の生え山に自生し、毎年非常に多く採れ、値段は甚だ安い。その他の茸類も多い。栗の実は、栗山が数ヶ所にあつて、一年おきに実る。上手な人は一日に二斗も拾ひ、他村に出荷するほど多い。その他山芋(自然薯)、春の山菜・筍等も出荷する。

(29号に続く)

五大堂を眺めて“ヨガ”教室

令和5年から、山寺コミュニティセンターの新規事業として、心と身体のリフレッシュ事業「ヨガ教室」を開催。山寺地区の人口減少が進む中、若い人達が集まる場所や山寺の魅力を変えて考えて欲しいとの要望があったことから、年代を問わず気軽に交流ができる場を提供しようと企画。早朝の事業にもかかわらず、共催という形で山寺芭蕉記念館からも快く協力してもらい、快適に開催することができた。

5月と9月は、芝生広場の上で、五大堂などの景色を眺めながら、清々しい空間に身を置いて



てヨガの指導を受け、参加者からは「このような素晴らしい環境でヨガを楽しめ、心身ともにリフレッシュできた。また、参加したい。」との感想をいただいた。

11月は小雨模様で、研修室（和室の大広間）で開催したが、雨戸を開いた部屋の窓から広がる想像していなかった山寺の絶景を堪能し、適度な身体の疲れの余韻に浸っていた。令和6年も開催予定なので、地区の皆さんも、是非、ご参加を！

耳よりな話

- ◎ コロナウイルス感染症がら類に移行後、インバウンド復活。
- ◎ 世界各国から立石寺参拝、峯の浦散策と、たくさんのお客さまで賑わう!!
- ◎ 4年ぶりに「かがり火いも煮会」実施。話に花が咲き、笑顔満開!!
- ◎ 令和6年1月18日より2月18日まで、山寺冬のライトアップ開催。宝珠橋公園内の二代目鍋太郎も赤く染まった!!



「福田園」の由来

(中地蔵)

奈良時代、時の聖武天皇は全国に国分寺・国分尼寺を建てさせた。国分寺・国分尼寺は、貧窮の民を救うために、現在のボランティア活動類の「小作地」を与えた。この土地が「福田（ふくでん）」と呼ばれた。氏家は、当時から広大な土地の所有者で何処に出かけるにも他人の土地を通ら

ずに行けた長者だったと伝わる。終戦後、小作地「福田」は、昭和21年のGHQの政策・農地解放によって小作人の所有地となった。福田（田・畑）の小作者はこの改革で自作農となり、福田（ふくでん）の農地は「福田園」と呼ばれるようになった。自作農家となった方々は氏家氏に感謝の心を示し、冠婚葬祭の際などに、氏家氏に御遣いを出し接待する習わしを続けたりもしたという。時を経てこの習わしは廃れて、現在に至っている。

現在、バス停標識の立つ界限は、千数百年の歴史変遷を秘め、現在に至っているところである。

防塵電波掛時計を贈呈

～山寺観光協会へ～



山寺中学生徒会が中心となり取り組んできた『アルミ缶回収』の収益金で、防塵電波掛け時計が山寺観光協会へ贈呈された。

令和5年12月21日、小中学校児童生徒が集い、山寺観光協会清原会長へと贈呈された後、宝珠橋公園の公衆トイレ西側の壁面に掲げられた。



山寺地内には山寺駅構内の時計だけだったので、地域の方々のみならず、国内外からのお客さまにも有効に活用されと期待大!!

やまでら館に

丸太たいこベンチ 3基
プランターカバー 2基

— 間伐材を利活用～森林環境学習 —



やまでら館に見にきてください!!

今味わう、先哲の言葉

恩送り

立石寺住職 清原正田

恩返しは、お世話になった人に、その受けた恩をお返しすることです。
恩送りとは、お世話になった人を含む全ての人に、恩をお返しすることです。
私たちは、生きている間、いろいろな人のお世話になっています。その受けた恩を、世の中全ての人にお返ししましょう!!

振興会

※令和5年も、一部について活動の中止・規模縮小が余儀なくされた。

◎中止↓(4月)山寺地区
歓迎会(1月)令和6年
新春初顔合わせのつどい

◎規模縮小↓(4月)山寺地区
区振興会総会(9月)山寺地区敬老会
(10月)市長を囲む山寺の集いⅡ市政
懇談会Ⅱ、山寺地区文化祭

◎通常どおり開催↓(5月)ソフトボ
ール・ソフトバレー大会
(8月)山寺地区レクレーション大会
(1月)ソフトバレー・卓球大会

※地域ぐるみの有害鳥獣被害対策
イノシシやサルなどの野生動物による
生活環境被害を防止するため、各町
内会と連携して活動した。

◎収穫しない果樹の伐採
5町内会(中地蔵・地蔵堂・馬形・
所部・千手院)の7ヶ所の柿の木や栗
の木等を伐採した。

◎山形市地域ぐるみ鳥獣被害対策事業の実施
・除草剤噴霧器・ヘルメットを購入
・有害鳥獣駆除用花火を購入
・チェーンソーの保守点検を実施

◎鳥獣用侵入防止柵の整備
国の「鳥獣被害防
止総合対策交付金」
を活用し、4町内会
(中地蔵・地蔵堂・宮
崎・馬形)において、
広域防護柵(一部電
気柵併用)を整備し
た。総延長は、約11km。

た。総延長は、約11km。



〈馬形〉

◆令和5年度 振興会役員(敬称略)
会長 佐藤 正紀(中地蔵)
副会長 笹原 茂美(川原町)
滝口金右エ門(芦 沢)

自治推進委員長(兼副会長)
毛利 今男(所 部)
役員 布施 文弘(中地蔵)
水戸部信一(地蔵堂)
布施 修(宮 崎)
武田 和彦(宮 崎)
川邊 信治(芦 沢)
布施 春夫(川原町)
堀川 和義(南 院)
安藤 章吾(馬 形)
安藤 恵一(馬 形)
佐々木勝則(千手院)
後藤 俊弥(千手院)

有害鳥獣対策担当
成山 佳明(地蔵堂)
〃(協力者) 柏倉 茂幸(芦 沢)
会 計 武田 栄作(所 部)
事務局長 渡辺 尊(やまでら館)
監 事 今井 幸雄(所 部)
富樫 美代(千手院)

◆感謝状
自治推進委員退任感謝状
富樫 政利(中地蔵)
成山 佳明(地蔵堂)
布施 幸雄(宮 崎)
滝口金右エ門(芦 沢)
笹原 茂美(川原町)
矢萩 昭夫(南 院)
小笠原 仁(馬 形)
今井 幸雄(所 部)
富樫 美代(千手院)

◎実施した共催事業
(5・9・11月) ヨガ教室

◇新規◇
◎コミセン所長の異動
(新任) 伊藤 忠
(退任) 矢萩 昭夫

◎コミセン事務局職員の
異動
(退職) 久保田幸子
(採用) 増子 友美

◎実施した主催事業
(1月・2月) 手芸教室
(10月) 紅葉川溪谷トレ
ッキング、そば打ち教室
(11月) 感謝のクッキー
作り、施設見学会
(12月) わいわい親子リ
トミック

◎中止した共催事業
(1月) 令和6年新春初顔合
わせのつどい

やまでら館

※山寺コミュニティセンター
で計画していた事業は、一部
が中止を余儀なくされたが、
新規の事業もあり、多数実施
することができた。
内容は、次のとおり。

◎規模縮小した共催事業
(10月) 山寺地区文化祭

◎実施した主催事業
(6月) 遊仙狭トレッキ
ング
(7月) 防災教室◇新規◇
(8月) 手作りパン教室
(9月) ランプシェード
つくり

(10月) 紅葉川溪谷トレ
ッキング、そば打ち教室
(11月) 感謝のクッキー
作り、施設見学会
(12月) わいわい親子リ
トミック

(1月・2月) 手芸教室
(5・9・11月) ヨガ教室

◇新規◇
◎コミセン所長の異動
(新任) 伊藤 忠
(退任) 矢萩 昭夫

◎コミセン事務局職員の
異動
(退職) 久保田幸子
(採用) 増子 友美



〈親子リトミック〉



〈もみじ公園の見学〉



〈文化祭〉

**お誕生
おめでとう!!**
令和5年生まれ



・布施 順次氏二男
〈地藏堂〉
和樹さん



・富樫 眞一郎氏二男
〈中地藏〉
麓多さん



地区敬老会

**おめでとう
金婚さん**

松田 正志
悦子
〈宮崎ご夫妻〉

森谷 盛克
しげ子
〈宮崎ご夫妻〉



令和4年に続き、令和5年第63回山形県中学校総合体育大会水泳競技男子200m個人メドレー優勝で2連覇を果たした。2連覇は簡単にできることではない。プレッシャーは相当なものだったに違いない。東北大会でも並ぶ強豪選手の多い中決勝に進み200m・400mと5位入賞を果たした。中学校最後のレースで自己ベストをマークし、有終の美を飾った。

山寺中学校では大活躍をした松田征也選手を讃え、のぼり旗を設置。



松田 征也さん
山寺中3年
〈宮崎〉

**輝かしい活躍!!
感動をありがとう!!**

**令和五年物故者
謹んでお悔やみ
申し上げます**

〈千手院〉 後藤 一男殿	後藤 武男殿
〈所部〉 増子 貞殿	東海林信夫殿
〈馬形〉 安藤 利雄殿	東海林敬二殿
後藤貴美子殿	佐藤ミヨ殿
〈南院〉 板橋 キツ殿	
〈川原町〉 笹原 永吉殿	
〈芦沢〉 滝口真木雄殿	伊澤 精一殿
山田ナカエ殿	柏倉千江美殿
〈宮崎〉 布施 静子殿	武田 政人殿
〈地藏堂〉 布施 晶嗣殿	布施清太郎殿
〈中地藏〉 富樫 政利殿	布施みつ子殿

表彰状

- 山形警察署長・山形地区交通安全協会表彰
- 山形地区交通安全協会 山寺支部
- 令和5年度日本PTA全国協議会会長特別表彰
- 山形県PTA連合会
- 母親委員会委員長 高見 佳澄

感謝状

- 山形県青少年補導連絡協議会感謝状
- 山形警察署長感謝状 遠藤 正明

Yamadera Welcoming Tour!!

修学旅行で 山寺中3年生 べにばなプレゼント

山寺を国内外へ発信!!

令和5年10月11日に、約4年ぶりのYamadera Welcoming Tourが行われた。山寺中学生全員が山形国際ドキュメンタリー映画監督の皆さんに山寺の良さを伝えたいと、山寺観光協会インバウンド部Yamaderansの方々の指導のもと、英語でコミュニケーション力を高めていった。当日は、蔵王二中の先生、生徒の伊東さんも参加し、全員で最高のおもてなしが出来た一日だった。ALTのコナー先生が映画監督の皆さんに感想を聞いてくださった。

令和5年7月5日〜7日に、山寺中3年生が修学旅行で東京都新島村にある式根島中学校を訪問。修学旅行を通して学級の絆を深め自主・自律の精神で行動力を磨くこと、そして「観光地山寺に生かせる取り組みを見つける」という目標を持った。出発前には、新島



「山寺の景色は大変美しい。そしてそれ以上に美しいのは、山寺の中学生が一生懸命に案内してくれたその姿だった。」と。生徒達からは「いろいろな方々と交流することは楽しいことだった。将来は人と関わる仕事に就きたい。そしてもっと外国人との共通点や相違点、山寺の

村の方々へのお土産作り。紅花染めの手作りうちわ、紅花のラッピング等、準備する生徒達は、訪問先の方々に喜んでいただこうと、期待に目を輝かせて取り組んでいた。「今回の修学旅行を通して、地域文化を学ぶことの大切さを身をもって知った。機会があれば



ば、もう一度行ってみたい。今回学んだことを生かして、これからの地域学習に繋げていきたいらと思った。」
「式根島に行ってみて、最初は行きたくないと思っていたけど、中学生と交流したり、きれいな景色を見ることができたり、式根島の人達はとても面白い人や優しい人がたくさんいた。良かった。」



ことも調べたいと思つた。」
「もっと英語を勉強して、たくさんの人とコミュニケーションをとれるようになりたい。」と生徒達がこのツアーで経験したことは、将来に繋がる貴重なものとなった。さらなる活躍に期待!!

Pepperくんが学校に!

冬季パラリンピックスキークラウド選手太田渉子さんを講師に招き、Pepperくんを「スポーツマン」とは何かについて考え、クイズ形式で進めた。最後にスポーツマンとは、…相手を尊重する・勇気を持ってチャレンジする・覚悟してやり抜く、以上3つの気持ちを持つている人、スポーツマンという事に。一流選手とふれあい、多くを学んだ一日だった。



編集後記

宝珠のしずく28号をお届けいたします。新型コロナ禍旋風にもめげずに展開された、山寺地区内での「まちづくり」の意義深い活動を記録・編集してみました。いかがでしょうか。

長く編集委員を務めて頂いた笹原永吉さん、布施昌嗣さんのお二人がお亡くなりになりました。お二人からは、編集委員として斬新な紙面構成にご尽力を頂き感謝を申し上げます。有難うございました。ご冥福をお祈り致します。

★編集委員

- 新関 孝夫 ○矢萩 昭夫
- 後藤 久 石川 進一
- 渡辺 尊 遠藤まき子